

読賣新聞

THE YOMIURI SHIMBUN

第44571号 (日刊) ©読売新聞社2000年

5月13日 土曜日
2000年(平成12年)

発行所
読売新聞社
東京都千代田区大手町1-7-1
郵便番号 100-8055
電話(03)3242-1111

放送塔から

単発のドキュメンタリー

に、50通もの反響が寄せられている。フジテレビ系で5日に放送された「こどもの日スペシャル『小さな留学生』」。かつて留学生として来日した中国人の張麗玲さん(32)が、中国から都内の小学校に編入した少女、張素ちゃん(9)に2年間、密着取材を続けた日々を紹介したものだ。

茨城県の中学生・藤ちえみさん(14)は「張素さんが一生懸命に日本語を覚える姿に心を打たれました。張麗玲さんの取材も1000時間を超え、大変だったと思います。ぜひ再放送をお願いします」と、素直な感動を記した。

北海道の会社員・藤原サチ子さん(51)は「2年間の少女の成長は目を見張ることばかりでした。中村先生(張素さんの担任)が夏休みに、離日した彼女の学校へ訪れたのもうれしい友好でした。きっと同級生の中に、将来は中国にかか

わる仕事や趣味を持つ人が出ることでしょう」との期待をつづつた。

東京都の会社員・斎藤モエミさん(29)は、自身が英語を話せないまま18歳で留学した経験に重ね、「周囲に日本人がいない、同じ寮の人と普通に会話が交わされるまでの歯がゆさ、悔しさ

「小さな留学生」再放送望む声多数

を思い出し、彼女の苦労が察せられた」という。また、「張素さんご家族、彼女を支えた方々の努力を知るとともに、日本にいる中国の方々の日々を客観的に描くことで、押しつけがましくなく素直な気持ちで見ることができた」とも述べている。

富山県の日本語教師・山下昌代さん(43)も「日本の学校で、外国人というだけでいじめられているケースが少なくない。この番組をぜひ、小中学生に見てもらいたい」と強調した。ほとんどのほうが再放送や続編の放送を望み、番組に対する疑問や批判が皆無だったのも印象的。ドキュメンタリーが持つ底力を久々に感じた。(ん)